

日本の農業と農村
——21世紀に向けての課題——

牛山 敬二

(北海道大学名誉教授)

・ 報告の意図

16世紀末以来400年にわたって日本社会の基盤になってきた自治村落はいま崩壊しつつある。その組織と機能の歴史をたどって、今後の農村社会に生かせるものについて考える。

1) 日本農村社会の原型 —自治村落

- ・ 幕藩体制の基盤としての自治村落
- ・ 兵農分離と刀狩り・検地と村領域内の自治
- ・ 幕藩体制の矛盾とその変化
- ・ 農業生産の変化
- ・ 幕府の統治能力の喪失と明治維新
- ・ 地租改正と金納地租 秩禄処分—封建制度の妥協的解消
- ・ 資本主義の基盤になった自治村落
- ・ 農家と自治村落
- ・ 膨大な都市と農村の雑業層
- ・ 第2次世界大戦前夜に形成された農村・都市間の労働市場の直結構造
- ・ 敗戦と農地改革 それをもたらした自治村落の活性化
- ・ 高度経済成長以降の都市化・兼業化・農村人口の高齢化・農村の混住化

2) 21世紀初頭の農業危機の現状

- ・ 農家の激減と耕作放棄地の激増
- ・ 法人経営の農業進出
- ・ 農協の統合と弱体化

3) 最近の混迷する農業政策の諸特徴

- ・ WTO 農業交渉
- ・ 自給率40%の食料安全保障とは？
- ・ 農家戸別所得保障制度

4) 新しい農業の担い手は？

- ・ 家族経営
- ・ 集落営農の可能性
- ・ 法人(企業)経営の農業進出
- ・ どうしたら日本農業の明るい展望を開けるのか？

参考文献：（アイウエオ順）

- 牛山 敬二『農民層分解の構造—戦前期—』御茶の水書房 1975 年
- 牛山 敬二「戦後改革期の農村社会」（戦後日本の食料・農業・農村第 11 巻『農村社会史』第 1 章）農林統計協会 2005 年
- 牛山 敬二「農家経営・経済・生活」（戦後日本の食料・農業・農村第 2 巻（1 『戦後改革・経済復興期 I』第 6 章）農林統計協会 2010 年
- 牛山 敬二「日本資本主義の確立」（暉峻衆三編『日本の農業 150 年 1850—2000 年』（有斐閣）2003 年、第 2 章
- 大内 力 『農業の基本的価値』 家の光協会 1990 年
- 岸 康彦 『農に人あり志あり』創森社 2009 年
- 佐伯尚美 『米政策の終焉』 農林統計出版 2009 年
- 齋藤 仁 「東南アジアの農業問題の内部構造」（滝川勉・齋藤仁編『アジアの土地制度と農村社会構造』）アジア経済研究所 1968 年
- 齋藤 仁 「日本の村落とその市場対応機能組織」（大鎌邦雄編『日本とアジアの農業集落』清文堂）2009 第 4 章
- 鈴木宣弘 『現代の食料・農業問題～誤解から打開へ～』（創森社）2008 年
- 鈴木宣弘 『食の未来に向けて 暮らしのなかの食と農』（つくば書房ブックレット 47）2010
- 鈴村源太郎「農業以外の農業事業体を基軸とした構造変化」（小田切徳美編『日本の農業—2005 年農業センサス分析—』農林統計協会 2008 年
- 田代洋一 『「戦後農政の総決算」の構図』 筑波書房 2005 年
- 田代洋一 『集落営農と農業生産法人』筑波書房 2006 年
- 田代洋一 『この国のかたちと農業』 筑波書房 2007 年
- 田代洋一 『農業・協同・公共性』 筑波書房 2008 年
- 田代洋一 『混迷する農政・協同する地域』筑波書房 2009 年
- 暉峻衆三編 『日本農業の 150 年』有斐閣 2003 年
- Shuzo Teruoka (Ed.) Agriculture in the Modernization of Japan 1850 -2000, published by Manohar Publisher & Distributors New Delhi 2008 ISBN 81-7304-765-0